

CONTENTS

- P1 第51回 定時総会
ベストワールド(株)様、井上美昭様よりご寄付賜る
- P2 創立50周年記念激励会
- P3 警視庁機動隊観開式
Member's Lounge 「リーダーの責務と心得～自衛隊での学び～」立花尊顕氏

発行所 一般社団法人
機動隊員等を励ます会
〒103-0025 東京都中央区
日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館
発行人 中村 真一
TEL 03(5614)0710
FAX 03(5614)0719
http://www.hagemashi.com
jimukyoku@hagemashi.com

令和6年
7月号

はげまし

For the Riot Policemen
& Members

—No.576—

第51回

定時総会



一般社団法人 機動隊員等を励ます会
第51回(2024年度)定時総会

議事を進める中村理事長

去る6月5日、当会の第51回定時総会・創立50周年記念激励会を明治記念館にて開催した。なお、今回の定時総会にてすべての理事・監事が任期満了となることから、2026年6月までを任期として新たに理事・監事が選任された。

定時総会では、前号に掲載したとおり、第1号議案「2023年度事業報告及び収支決算」、第2号議案「2024年度事業計画及び収支予算」が原案どおり承認された。
第3号議案「理事及び監事の選任」においては、本部と支部をあわせて理事の重任24名、新任7名、新任監事2名の選任案が承認された。
また、30年ぶりとなる法人会費の改定を行う第4号議案も、原案どおり2025年度からの会費増額(2024年度末集金)が承認された。
議案の審議後は、入会から30年を迎える会員への永年功労賞として、法人会員のセントラル警備保障株式会社、個人会員の松本勝巳氏に感謝状が贈呈されることが発表され、総会に出席していたセントラル警備保障の田端取締役が中村理事長から感謝状が贈呈された。

ベストワールド
株式会社様、
井上美昭様より
ご寄付賜る

ベストワールド株式会社様より当会創立50周年を機に社会貢献の一環として20万円のご寄付を頂戴いたしました。
今後、機動隊支援のための資金として活用させていただきます。ありがとうございます。
また、井上美昭様より30万円のご寄付を頂戴いたしました。
沖縄県警察本部機動隊、国境離島警備隊にトレーニング機器等を寄贈させていただきました。ありがとうございます。
(励ます会事務局)

一般社団法人
機動隊員等を励ます会
理事・監事

2024年7月1日現在



理事長 中村 真一 (日鉄物産) | 副理事長 内田 裕之 (合同機動) | 副理事長 廣瀬 季 (日本製鉄) | 相談役 樋口 真哉 | 理事 飯島 敦 (日鉄鋼機) | 理事 石俣 行人 (日鉄エンジニアリング) | 理事 犬伏 勝也 (住友商事) | 理事 井上 昭彦 (日鉄ステルス) | 理事 小野山 修平 (日鉄テックス エンジン) | 理事 河瀬 博英 (岡部)



理事 北村 京介 (梅メタルワン) | 理事 芝本 尚武 (芝本産業) | 理事 鈴木 勝 (五丁) | 理事 園田 裕人 (日本製鉄) | 理事 谷 潤一 (大阪製鉄) | 理事 近松 幸士郎 (日鉄ドラム) | 理事 手塚 敏之 (三井物産 スチール) | 理事 中田 貴之 (和光製鉄) | 理事 橋山 和生 (協賛製鉄) | 理事 右田 彰雄 (日鉄ケミカル & マテリアル) | 理事 美濃部 慎次 (日鉄建材) | 理事 宮本 勝弘 (山陽特殊製鉄)



理事 米澤 公敏 (日鉄物流) | 北海道支部長 須藤 百也 (ナラサキ スタッフス) | 東北支部長 下池 重義 (柳井王) | 北陸支部長 今井 幹太 (康田金剛) | 千葉支部長 菅 千太郎 (平和産業工業) | 名古屋支部長 廣部 貴巳 (豊田通商) | 大阪支部長 木村 純 (富士興業) | 中国四国支部長 堀口 悟史 (堀口海運) | 九州支部長 自見 修真 (自見産業) | 監事 岩井 一雄 (和商會) | 監事 村上 裕 (日鉄ケミカル & マテリアル) | 常任理事 伊澤 昭則

北海道支部 事務局 島津 俊彦 (日本製鉄) 北海道支部 鋼材室長 | 千葉支部 事務局 遠藤 信太郎 (平和産業工業) 課長 | 大阪支部 事務局 吉原 弘志 (富士興業) 営業部長 | 東北支部 事務局 渡部 陽介 (日本製鉄) 東北支部 鋼材室長 | 名古屋支部 事務局 名古屋 清美 (豊田通商) メタル+(Plus)本部 | 中国四国支部 事務局 小松 純 (日本製鉄) 中国支部 自動車鋼材・溶接室長 | 北陸支部 事務局 田子 泉 (康田金剛) 総務部 課長 | 九州支部 事務局 新山 通世 (日本製鉄) 九州支部 厚板・建材・鋼管室長

- 今月の賛助広告会員 →
- 日本製鉄(株)
 - 堀口海運(株)
 - 日鉄物産(株)
 - 日鉄物流(株)
 - 大阪製鉄(株)
 - 日鉄建材(株)
 - (株)辻さく
 - 草野産業(株)
 - 岡谷鋼機(株)

創立50周年記念 激励会

定時総会の終了後に行われた創立50周年記念激励会では、来賓の露木康浩警察庁長官、森元良幸警視庁副総監以下、警察幹部と現役の機動隊員が参加し、当会会員と合わせて総勢約300名が交流を深めた。

開会の挨拶で、中村理事長は「当会は今年3月に創立50周年を迎えた。これまで会員並びに

機動隊をはじめとする警察関係の皆さまのご支援に心より感謝します。また、警視庁は明治7年に東京警視庁が設立され、今年創立150年を迎えられた。警視庁機動隊は今年で76年。これまで連続と続いて来られた歴史と伝統、そして語りつくせないご努力に敬意を表します」と述べた。

また、祝辞において露木警察庁長官は、「50年にわたる機動隊への多大なるご協力、ご支援に御礼申し上げます。50年前からデモの形態も変わり、警備情勢も変わっている。特に、一昨年前に安倍元総理が銃撃され、昨年は和歌山で岸田総理が襲撃され、警備情勢は一変したと言っても過言ではない。これらの事件を受け、警察庁としても警備のあり方を抜本的に変える



会場に入場した隊員を拍手で迎える



内田副理事長



森元副総監



露木長官



中村理事長

べく、改革を進めている。機動隊には相当プレッシャーがかかっているのではないかとと思う。さらに災害警備、雑踏警備など、国民が警察に期待するところが大きくなっている。今日は現役の隊員も多数来ている。この場でもぜひ激励していただきたい」と述べた。

続いて、森元副総監は、「創立50周年、誠にありがとうございます。長年にわたり全国優秀機動隊員表彰をはじめ心温まる激励を賜っていることに厚く御礼申し上げます。私自身は広島サミットを本部長として経験したが、連日勤務が未明から深夜に及び、また部隊の宿舎はバスで1時間以上かかる遠方であったため、少しでも睡眠時間を確保するため少なからぬ部隊が機動隊のバスの中で三日三晩寝泊まりして任務に当たってくれた。任務を完遂し、機動隊が広島を離れる際には、多くの県民が手を振って惜しめない賛辞の声を送っていた光景を今でも鮮明に覚えている。デモ隊などから罵声を浴びながらも冷静かつ毅然と職務を遂行するのが機動隊。どうかこれからも機動隊に暖かい激励を賜りますよう、お願いいたします」と述べた。

このあと乾杯となり、内田副理事長から「今後どういう活動をしていくか、私ども理事会もいろいろと知恵を絞っているところだが、機動隊の活躍を民間の立場から引き続き支援する気持ちはまったく変わっていない。そのスタンスで引き続き活動したい」と述べ、乾杯の音頭をとった。



懇談する参加者の皆さん



廣瀬副理事長



「この世を花にするために」を歌う橋幸夫氏



謝意を述べる松永巡査部長

～ 今月の賛助広告会員 ～

- 日鉄エンジニアリング(株)
- 合同製鐵(株)
- (株)メタルワン
- 五十鈴(株)
- 三和運輸機工(株)
- 岡部(株)

警視庁機動隊観閲式

創立150年の節目に 約1700名の機動隊員が分列行進

去る5月14日、今年で創設76年となる警視庁機動隊観閲式が明治神宮外苑絵画館前にて行われた。当会から中村理事長と伊澤常任理事が観覧した。



特殊救助隊



広域緊急援助隊



女性警察官特別機動隊

観閲式は午前7時20分に開始された。緒方警視總監が臨場し、開式宣言が行われ、警視庁音楽隊の演奏をバックに各部隊の機動隊員による分列行進がスタートした。東京国際空港テロ対処部隊やサブマシンガンを装備した銃器対策部隊のほか、能登半島地震で現地に派遣された特殊救助隊や広域緊急援助隊も行進。警備犬6頭、爆発物処理車など車両75台、ヘリコプター4機も披露された。

全部隊が行進を終えると、緒方警視總監は「本年は、年初から能登半島地震や羽田空港における航空機衝突事故など甚大な被害をもたらす自然災害や事故が連続して発生し、機動隊が対応する事案は時と場所を選ばないことを改めて痛感させられた。また、国外に目を転じれば、いまだ終わりの見えないロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ情勢など国際社会の平和と安定を脅かす事態が続いている。このような情勢のもと、災害等発生時の対処はもとより、平時の重要施設の警戒警備を始めとする各種警備において、一人ひとりがそれぞれの持ち場で与えられた任務を確実に果たすとともに、治安のプロとしての矜持と覚悟を持ってその名に値する結果を出すことが都民・国民に確かな安心を与



機動隊自動二輪部隊

えるものであることを肝に銘じていただきたい。
警視庁は本年創立150年の節目を迎えた。機動隊はその創設以来、常に「治安の最後の砦」であり続けている。これからも我々の前には幾多の困難が待ち受けていると思う。治安の最後の砦としての力を保持し必要とされるときにその力を遺憾なく発揮し、機動隊に託された使命を果たし続けることを心から願う」と訓示した。

Member's Lounge 機動隊員等を励ます会 5月の朝食講演会

厳しい状況の中で、リーダーとしてどう物事に向き合うべきか。今回は自衛隊で要職に就いてきた立花氏にご登壇いただき、イラク復興支援活動や東日本大震災での経験を踏まえたリーダーのあり方についてうかがった。



<5月16日のゲスト>
たちばな たかひで
立花尊顯 氏
日本地雷処理を支援する会 理事

プロフィール

- 1957年 福岡県生まれ
- 1982年 防衛大学校卒業、陸上自衛隊入隊 第8戦車大隊(大分県玖珠)配属、その後各地に所在する隊に勤務
- 1997年 タイ陸軍大学留学
- 1999年 在タイ日本国大使館 一等書記官兼防衛駐在官
- 2002年 陸上幕僚監部防衛部 運用課運用第2班班長
- 2004年 第43普通科連隊長兼 都城駐屯地司令(都城)
- 2005年 第8次イラク復興支援群長 (2006年3月前職復帰)
- 2006年 統合幕僚監部運用部 運用第2課国際協力室長
- 2008年 第7師団司令部幕僚長
- 2010年 東北方面総監部幕僚副長
- 2012年 自衛隊情報保全隊司令
- 2014年 自衛隊退職、野村證券入社(資産形成推進部)
- 2022年 野村證券退社 認定特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会(JMAS) カンボジア現地事務所代表
- 2023年 3月帰国、現職

リーダーの責務と心得 自衛隊での学び

1. 自衛隊の役割の変化
自衛隊発足から約70年が経ちますが、大きな節目は1989年の冷戦終結でした。国際社会の中で、「存在する自衛隊」から「運用する自衛隊」へと役割が変化し、応分の負担を求められるようになり、1991年に起きた湾岸戦争への貢献を求められ、まずペルシャ湾へ掃海艇(※1)を派遣しました。その後1992年にPKO協力法(※2)ができて、その年にカンボジアにPKO部隊を派遣し、国際的な活動が始まりました。2003年のイラク戦争の時にはイラク復興支援特別措置法が成立し、イラクにも部隊を派遣しました。

この時期は国内的にも大きく変わりました。1995年の阪神・淡路大震災で自衛隊は出動が遅い非難を受けます。当時、自衛隊の災害派遣は県知事等の要請によって出動するのが基本でしたが、この教訓から自主派遣の基準を明確化し、より積極的に派遣できるようにになりました。そして東日本大震災では、初の統合任務部隊を編成し10万人態勢で災害派遣活動を行ったわけです。

まず、私が携わった活動の中で、イラク復興支援活動と東日本大震災の災害派遣活動の概要について紹介した後、リーダーについて自衛隊で学んだことを紹介します。

※1掃海艇：機雷を発見、処分することを主任務とする小型艦艇
※2PKO協力法：国際連合平和維持活動(PKO)等に対する協力に関する法律

2. 活動経験の概要
(イラク復興支援活動)
まず、組織的にも大きなインパクトであったイラク復興支援活動についてご紹介いたします。派遣期間は2004年から2006年、派遣隊員は約600名です。当時の情勢は、バグダッドの北部では、まだ戦闘が続いていましたし、我々が展開した南部においても、さまざまな脅威がありました。陸上自衛隊としては初めて殉職者、つまり戦死者を出すかもしれないという危機感のもとでオペレーションを行いました。

主な活動は人道復興支援活動で、給水、医療、学校、道路の補修等を行い、概ね目的を達成できたものと思います。一方、警備については相当の努力をしました。当時の具体的な脅威としては、投石、狙撃や襲撃、基地に対する砲弾、自爆テロといったものがありました。基地の周りには深い壕を掘り、基地につながる道路はわざと蛇行させて、爆弾を乗せた自動車が突っ込んでこれられないように工夫し、警備に当たらないよう、重さ約10キロの防弾チョッキと、実弾を半装填した銃を装備し、サングラスは紫外線対策ではなく、隊員がどこを見ているかわからないようにするためです。そのような中で最も緊張したのが、ルメイサという場所で50〜60名の民兵組織の暴徒に襲撃された時です。車のバックミラーはほとんど壊され、大きな石も投げられましたが、最悪の事態にエスカレーションすることなく、人的被害もありませんでした。なぜ、その程度で取まらなかったか、最も大きな理由は準備訓練です。詳細は後で述べます。

-- 今月の賛助広告会員 --

- 三和実業(株)
- 新ケミカル商事(株)
- 平和農産工業(株)
- 玉造(株)
- 山陽特殊製鋼(株)
- 日本製鉄(株)名古屋支店

(P4へつづく)

(P3からつづく)

〈東日本大震災〉

東日本大震災では、統合任務部隊を編成し、災害派遣活動を実施しました。地震、津波災害については、3月11日の震災から人命救助、行方不明者捜索、そして生活支援を8月末まで行いました。原発については、放水作業、モニタリング、避難誘導支援、一定地域の除染活動を行い、12月に撤収しました。

また、亡くなられた方を土葬する場所まで運ぶ任務もありました。亡くなられた方に甲意を示すために、全員が白手袋をして活動を行いました。

石巻の大川小学校の捜索では行方不明者を探るため、土砂を削りだり、大川小学校の上流にある沼の水もすべて抜いたりなどをして捜索しました。ご家族にとってはそれでも納得できるものではないのかもしれないと思いますが、自衛隊としてできる限り捜索活動を行いました。

3. 自衛隊での学び

3. 自衛隊での学び
リーダーの責務
機能的な組織におけるリーダーの役割は、組織の進むべき方向を示し、組織の能力を最大限に発揮させることです。そのためには、適時・適切に状況判断し、決心して指揮することが不可欠です。これは指揮官の専管事項であり、スタッフがやってはいけません。また、指揮に欠かせないのは指揮下の部隊を確実に掌握すること、そして明確な企図のもとに適切な命令を与えることだと自衛隊では学びます。

自己の許容限界を超えた情報こそ重要
情報が重要だということに異論はないと思いますが、自分の組織に影響を及ぼす情報になると落とし穴があります。例えば福島原発事故です。原発は安全という

いゆる安全神話があり、事前には実際の訓練は行われませんでした。以前から宮城県沖地震としてマグニチュード7〜8の地震が起こると想定され、津波の高さが原発の防潮堤を超えるのではないかと、その情報もあつたようですが、それに対して具体的な対策も取られていませんでした。そのような状況で、原発事故対応を余儀なくされたのは原発に対する放水です。国の対処計画にも自衛隊の任務として示されていませんでしたから、もちろん訓練も行ったとはありませんが、気がつけば消防車や上空からヘリで原子炉に放水していたということです。陸上自衛隊の消防車は駐屯地の中の火災のための消防車です。原子炉に向かつて放水した隊員は、それまで一度も原発を見たことがない状況だったのです。また、原発近くの病院から患者輸送も行いましたが、部隊は出発する時は、輸送部隊の指揮官から「どこに行けばいいのかわかっていますか」「わからないのかわかっていますか」などと言われ、途中でどこに行けばいいかわからない状況だったわけですね。混乱の中の対応でした。

以上はその被害の状況を分析する結果、亡くなられた方の対応で火葬場が足りない、また、被害建物には製油所も含まれており、燃料が足りないということが起こったわけですね。もう少し情報を分析し起りえることを想像できたならと思います。全国には缶輦車協会や葬儀協会があり、事前に彼らの協力を取り付けられていたのではないかと考えています。
基礎・基本が極めて重要
作戦運用についての教訓事項として、当たり前のことですが、基礎基本が重要だということです。これを軽視すると、それまで積み上げてきた部隊の能力は、あつという間に崩れ落ちます。
イラクに行く前、約半年をかけて部隊を錬成しました。訓練を始めたばかりの頃は事故が多発しました。軽装甲機動車に乗員が乗ったまま川に落ちる、他の隊員の足を軽装甲機動車で踏んで複雑骨折させてしまう、空砲でしたが暴発させてしまうことも起こりました。これらが起きた原因は、隊員の焦りです。イラクで「砲弾で攻撃された」「道路脇の爆弾で攻撃された」といった情報が隊員に入ってくるわけですね。それに浮き足立って、今までしっかりとやってきた基礎や基本動作をすっかり忘れてしまう。その結果が事故に繋がりました。

言いたいことは自己に都合の悪い情報はないものにしてしまつて、見て見ぬふりをする落とし穴があるということですね。都合の悪い情報ほど大切にしないでください。任務にどのような影響を及ぼすかという具体的な分析が必須
宮城県沖地震の被害想定は、死者数千名、倒壊家屋何万棟でした。大きな被害になると認識で対処訓練も行っていました。それが

ます車両の前で整列し、自分の役割を呼称させました。これは新隊員が教わることで、そこから始めたのです。基本に立ち返ること、だんだん部隊が落ち着いていくのがわかりました。高度な任務になればなるほど、基礎や基本が重要なのだと実感しました。
脅威に対して真摯に準備することのみが解決の糸口
イラク派遣にあたりデモ隊への対応も準備しておかなければなりませんでしたが、自衛隊にはそのノウハウがありませんでした。そこで訓練を何度も繰り返して行い、ミーティングを重ね、どのように対処するかを作り上げていきました。最初はデモ隊に押し込まれて、あつという間に基地への侵入を許してしまつてしまつたが、次第に組織的な対応ができるようになっていきました。先に説明したルメイサでの襲撃時に落ち着いて対処できたのは、この訓練の成果だと思えます。思い悩んでも何の解決にもなりません。とにかく準備をすることです。

そこでもう一度、基本に立ち返ることを徹底しました。基本中の基本が挨拶と「気をつけ」です。自衛隊の挨拶は、敬礼をしつつ必ず目と目を合わせます。目を合わせることが互いに心情を確認しあうことができます。また、部隊が整列した時の「気をつけ」です。「気をつけ」をしている時は動かない、目を動かすな、と厳しく指導しました。また、車両に乗る時には、

困難な状況になればなるほど、状況判断を迷わすようなことが起きます。東日本大震災が起きた夜、ある指揮官が幕僚から相談を受けました。一人の隊員の父親が行方不明だから家に帰したいということでした。指揮官が「探すが当分はあるのか」と聞くと、「ありません」と隊員が答えました。指揮官は「当分がないのどこを探すんだ、さつさと仕事しろ」と即座に命じました。
自衛隊の任務は国民の生命と財産を守ることにあります。これが原点です。困難な状況があるときは、迷いや情緒的な判断を排するため、原点に立つことが非常に重要だと思えます。

4. リーダーとしての心得
人事を尽くさないと、天命を受け入れられるだけの覚悟はできない
イラク派遣で私に与えられた任務は二つあり、一つは復興支援活動で、もう一つは隊員を全員無事に連れて帰ってくることに考えていました。脅威に対してできる限りの訓練をしましたが、それでも100%安全ということではありません。与えられた任務を達成できなかったときにどう身処するかという問題が残っていました。派遣の一週間ほど前に、妻に隊員が命を落とすようなことになったら自衛隊を辞めることを伝えました。妻に承諾してもらい、それで任務に臨む覚悟というものができたように思えます。
原点に立つ

講演後質疑応答

Q 目の前で起つていて、ことごとく判断に迷うことでも即断しなければならぬと、き、どういった心境や覚悟で決断されているのでしょうか。
A 震災の時、毎日80万食の食料の配給を、空港から各避難所へ部隊が配送していました。スタッフから「隊員が疲れているから休ませたい」「そもそもこの仕事は自衛隊がやる仕事なのか」との声があがりました。当時、自衛隊以外の方法はなく、「やるしかない」と言うスタッフから「隊員がどうなつてもいいのかわかると反駁されましたが、すかさず「どうなつてもいい」と答えたことがあります。そのような時に、先ほど紹介した原点に立つことが重要だと思えます。第一優先は国民の命、次に隊員の命、そのあとに私の命。これが自衛官としての私の判断基準でした。

もう一つ、100%正しいなら選択を悩むことはないわけですね。通常いづれの選択肢も利点があれば欠点

もありません。ある選択肢を選んだ場合にその選択肢の欠点に対してどれだけの処置ができるかということも重要です。
Q イラクでの活動の際、信頼関係を築く上で特に配慮したことはありますか？
A 隊員が最も懸念していた射撃を含めて、行動に関する最終的な責任は私が取ることを明確にすることが重要だと思えました。また、隊員との距離を縮めるテクニク的なこともありませんが、隊員の名前を覚える努力をし、現場で顔を合わせたら「〇〇くん元気？家族は元気になっているか」と雑談をしながら不安はないかなど、心情把握に努めました。

現在、自衛隊の装備等が拡充されてきています。拡充の状況はどうでしょうか。
A 自衛隊を離れて10年くらい経つた今の状況は承知していませんが、今後5年間の防衛予算も大幅に拡大されるので、装備など改善されていくものと認識しています。

定時委員会及び創立50周年記念感謝会(本部)を無事終えることができました。この後は沖縄慰霊の日、広島、長崎の平和祈念式典の季節です。今年も暑い夏になりそうですが、例年通り機動隊の皆さんを支援していきたいと思えます。(励ます会事務局)

編集後記
定時委員会及び創立50周年記念感謝会(本部)を無事終えることができました。この後は沖縄慰霊の日、広島、長崎の平和祈念式典の季節です。今年も暑い夏になりそうですが、例年通り機動隊の皆さんを支援していきたいと思えます。(励ます会事務局)

今月の賛助広告会員
岡田運輸(株)
明鋼材(株)
ワークス(株)
芝本産業(株)
日鉄ドラム(株)
工ヌテック(株)
(一社)機動隊員等を励ます会 東北支部
《賛助広告募集中》